

# 特集

e-Learning の最前線

# e-Learningの 最前線



1. e-Learning とは何か
2. e-Learning の要素技術と標準化
3. 高等教育における e-Learning  
ーバーチャル・ユニバーシティの登場ー
4. 企業における e-Learning ー導入の効果ー
5. e-Learning を支える政策と今後の展望

# 特集：e-Learningの最前線

## 編集にあたって

文部科学省大学共同利用機関メディア教育開発センター研究開発部

永岡 慶三

nagaoka@nime.ac.jp

ゲストエディタの役割として、まず本特集を“売れる”内容とするためにはどうすればよいか、担当編集者と相談しながら章・節立てを策定し、可能な限り適切な執筆者陣を構成することを考えた。すでにe-Learningに関する解説書はビジネス書を中心に多数のものが刊行されているが、それらとの差別化を念頭にe-Learningの技術から制度まで、各分野の専門家による総合的解説を目的とした。結果、当初の目的はほぼ達成されたと考えている。

現状では、e-Learningに定まった定義はなく、本特集でも各章ごとに若干ニュアンスの相違がみられるかもしれない。しかし、それは観点の違いや力点の置き方の相違であり、それらの“or”をとったものがe-Learningのイメージと思っていただきたい。

### e-Learningの最前線

本特集から関心のある情報を効率よく得るには、以下の太字のキーワードを参考に拾い読みされてもよい。

- **e-Learningの概略**を知りたい人には、第1編「e-Learningとは何か」に**定義や用語**について詳しく解説されている。また、**教育の場の種別**によるe-Learningの方式の特徴も描かれている。
- 用いられている技術については、第2編「**e-Learningの要素技術と標準化**」を読めば概要が知れよう。想像にかたくないようにe-Learningにおいて教材コンテンツ等の互換性、共通性は、教育という社会的に汎用たるべき領域にはことさら重要であり、そのための技術についての**標準規格**についても詳述されている。
- 第3編は「**高等教育におけるe-Learning－バーチャル・ユニバーシティの登場**」である。技術者には普段縁遠いかもしれない**教育的観点**から、**アメリカの状況**とe-Learningの何が問題かが解説され興味深い内容である。
- すでに実用の域に達している**企業内教育**におけるe-

Learningについては、第4編「**企業におけるe-Learning－導入の効果**」で解説される。なぜそしてどの部分が**アメリカのe-Learning**は先行しているのかを、単に数字を挙げて動静を述べるだけでなく、企業が持つべき**e-Learningの理念**にも言及して語られている。

- 最後に、第5編「**e-Learningを支える政策**と今後の展望」では、**大学設置基準**の改訂点を中心に国の施策を詳しく紹介し、また今後は関係する人間が誰でも常識として持たなければならない**著作権**の知識について解説されていて嬉しい。

なお、本特集の随所にアメリカでのe-Learningの現状や先進事例が取り上げられている。それらが日本の現状に比して先行しており、もって範となす重要な情報であることには違いないが、こと教育に関しては歴史的経緯や考え方など、その背景には国民性にさかのぼって文化に深く根ざす差違があることを無視するわけにはいかないだろう。高度成長期に適していた従来の集合教育での効率的な一斉授業方式を改革すべき時期にあることは確かだが、日本の教育システムの今後の方向を考えると、アメリカのe-Learningの方式をモデルとして踏襲するだけではない、国際競争力を見据えた独自のビジョンを擁する必要がある。

本特集によって、まだ誕生まもなく今後どう成長するかは至って不明な新生児**e-Learning**に情報処理技術者の目が向けられることがあれば、たとえ**e-Learning**という呼称自体は長続きせず変化してしまうとしても、ITの教育市場に新たな展望が広がり、ひいては日本の将来的教育システムの発展に寄与できることと期待するものである。

最後に、熱心に執筆にあたり、力作をものして下さった執筆者諸氏に深く感謝申し上げる。

(平成14年3月7日)